

日本語インターンシップ・プログラム報告書
香港城市大学専上学院



高畑 頼子

八杉 倫

研修期間：2011年2月20日～3月19日
(1カ月)

研修先：中華人民共和国(香港)

1. 受入機関の状況

- (1) 現地受入大学名・学部学科名：香港城市大学専上学院・語文学部
- (2) 日本語教師数：常勤教師7名、非常勤教師11名
- (3) クラス数と日本語学習者数：1年生12クラス、2年生6クラス
(合計480名)

2. 担当した授業の状況

- (1) 実習した時間数：高畑頼子 50分×11、八杉 倫 50分×10
- (2) 見学した時間数：50分×24
- (3) レベル：初級前半～初級後半
- (4) 教科書：
『大家的日本語 進階Ⅰ』(本書原名 『みんなの日本語 初級Ⅰ』)
『大家的日本語 進階Ⅱ』(本書原名 『みんなの日本語 初級Ⅱ』)



(5) 授業の内容：主に教科書を使った会話練習、文法説明

(6) 授業の感想：

授業の目的や意図を考慮し、授業することを心掛けました。会話の授業では、教科書の練習だけでなく、学生自身に会話を考えさせることや、教師と学生全体で会話ができるようなトピックを扱い、その時間を設けました。

授業は自分が準備し、計画した通りにできました。ただし、学生が不自然な発話をしたとき、気がつかないことや、学生が理解しにくい所に時間をかけないことがありました。自分の言語感覚を磨き、学生の理解に合わせ臨機応変に授業をすることが大切だと思いました。(高畑)

実習の1回目・2回目は思い通りに授業が出来ませんでした。3回目以降はある程度思い通りに授業が出来たと思います。実習では先生方に見学に入っただき、よかった点や悪かった点について指摘していただきました。

よかった点は、例文をたくさん紹介していたこと、例文のあとに例文と関係のある質問をたくさんしていて良い会話練習になっていたこと、声が大きくて聞き取り易いこと、学生が上手く発音出来たり質問に答えたりしたとき「いいね。」や「なるほど。」や「上手だね。」と良いフィードバックをしているのでクラスの雰囲気が良かったことなどです。

悪かった点は、復唱出来ない学生には忍耐強くゆっくりと発音して待ってあげることが必要なこと、学生を当てた時、なかなか答えられない場合は丁寧に説明して答えを待つことも必要なことなどがありました。(八杉)



3. 授業以外の活動

日付	活動内容	実施場所
2月23日(水)	第三回アフレココンテスト参加	香港城市大学専上学院
2月26日(土)	日本語教師セミナー&ワークショップ 初級から中級へーその目標と教え方ー	九龍油麻地窩打老道23號
3月13日(日)	2011 広東地域日本語教師研修会	広東外語外貿大学第一教育ビル(中国広州)

4. 生活の様子

前回までホームステイでしたが、今回からホテルに宿泊させていただきました。宿泊先は帝豪海景酒店(地下鉄油麻地駅から徒歩3分)で、ホテルから大学まで徒歩と地下鉄で30分程度かかります。ホテルの近くには屋台が立ち並び、コンビニやレストランも多く、食事や買い物には困りませんでした。生活費は交通費込みで1カ月5万円程度かかりました。

大学では私たちのためのパソコンを準備してくれていて、インターネットも使うことができました。またホテルでもお金を払えば、無線でインターネットを使うこともできます。

掃除は毎日ホテルがしてくれますが、洗濯は毎日洗面所で手洗いしました。香港は湿度が非常に高いのですが、ホテルの中は乾燥しているため、洗濯物は1日でだいたい乾きます。洗濯ばさみ付きのハンガーなどがあると便利です。

だいたい英語が通じますが、ホテルの掃除係の人など広東語しか使えない人もいます。広東語の説明がついているガイドブックなどがあると安心できます。



4. 感想

今回の実習で、香港城市大学専上学院の先生方には大変お世話になりました。本校だけでなく、分校での授業見学や実習もさせていただきました。また、授業のことだけでなく、生活面などにも配慮していただき、気持ちよく1カ月を過ごすことができました。実習の途中、日本では東日本大震災が起き、日本語の先生だけでなく、他言語の先生方や学生さん達にも声をかけていただきました。他の国のことなのに、これほどまでに心配してくれるのかと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

学生さんとの交流では、香港の若者の考え方を知ることができました。これは教室の中にいるだけでは知ることのできないことです。授業後に学生さんと一緒に食事や観光しながら様々な話ができただことは、本当に貴重な思い出になりました。

このような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。(高畑)

